

校長室だより No 23

2019年1月25日

柏市立酒井根東小学校

<http://www.sakainee-e.kashiwa.ed.jp/>

校長 梅津 健志

「フラッグフットボールに取り組み中・・・」

特色ある本校教育活動の一つにあげられる「フラッグフットボール」です。来週月曜日には、アメフトのプロチームの方と大学生が来校して、1年生から4年生にフラッグフットボールの指導をしてくださる予定になっています。

今年高学年は、フラッグフットボールではなく、サッカーに取り組むこととなり昨年度までと若干異なっています。その理由をご説明したいと思います。

フラッグフットボールもサッカーもゴール型のボールゲームです。ゲームを通じて、次のような学習をすることがねらいになっています。

ボールゲームの楽しさを味わうこと。

ゲームのルールを工夫したり、作戦を考えたり、選んだり、すること。

ゲームに勝つために自分で考えたことや、友達が考えたことを伝えあうこと

この3つの活動が生まれるような教材として低中学年にはフラッグフットボールを高学年ではサッカーを取り入れているのです。

フラッグフットボールは、アメフトと同じように攻撃する時と守る時が分かれています。従って、攻撃する時には攻撃の作戦を、守る時は守る作戦を考え実行することに適しています。

また、攻撃は3回まで等、失敗してもやり直しができるようになっており、考えた作戦が失敗してもまた再挑戦することができます。必ず作戦の練り直しの時間が確保されて、作戦を成功させるために力を合わせるようになっているのです。

低学年はボールを持って走ることが中心になりますが、4年生にもなると楕円形のボールを上手にパスすることもできるようになり、走りとパスを組み合わせた作戦が実行できるようになります。作戦を考え、作戦が成功するように練習し、ゲームの中で確かめるといような形で授業が進みます。

一方の高学年のサッカーも同じように作戦を考え、点数につながるように練習し、協力してゴールをねらいますが、フットボールと違うのは、攻撃側と守備側が瞬時に入れ替わってしまうところです。

昨年度末に体育を担当する先生たちは、フラッグフットボールで培った作戦を立てて実行していく力を、高学年ではサッカーで活かし、攻撃と守備が入れ替わっても対応できる力に高めていこうと考え、高学年ではサッカーを教材にしています。

また、ボールを蹴るという活動をあまり行わない本校の子供たちは、キック力が弱いという結果もあり、バランスよく運動能力を高めるために、ゴール型のボールゲームの教材をフラッグフットボールからサッカーへと発展させる形で指導計画を変更しました。ご理解いただけただけでしょうか？

フラッグフットボールが小学校の教材として示されたのは今から30年近く前のことです。私も体育の授業に取り入れるために、薬円台高校の先生の所まで習いに行った記憶があります。作戦を考え、それを実行するために協力して行う、そのために体も頭も鍛える、そしてそれをサッカーに活かすことは、体育の授業を通して将来にもつながる力の基礎を付けられるものだと思っています。